

環境レポート

2024

対象期間：2023 年度



共和レザー株式会社

目次

トップメッセージ	3
サステナビリティ	4
環境マネジメント	5
・推進、管理体制	5
・環境 ISO、環境方針	6
カーボンニュートラル	7
・CO ₂ 目績と実績	7
①再エネ【太陽光発電】	8
①再エネ【CO ₂ フリー電気】	9
②設備投資・技術革新【燃料転換】	10
②設備投資・技術革新【見える化】	11
③日常改善・省エネ【廃熱利用】	12
③日常改善・省エネ【遮熱】	13
③日常改善・省エネ【設備更新】	14
・CDP 評価	15
・非財務情報の開示	16
資源循環	18
・廃棄物量	18
・樹脂・基布のリサイクル	19
化学物質	20
・PRTR 対象物質	20
環境対応製品	21
・リサイクル PET 使用製品	21
・バイオ材料配合製品	21
・昇温抑制機能	21
・エシカルな合成皮革 Sobagni	22
・静岡茶から作った Chakara	23
社会貢献	24
・家庭の不用品を海外へ寄付	24
・地域の清掃活動	25

編集方針

環境関連の取り組みについて、広く社会へ発信することを目的としています。

※把握可能な情報からの推測が含まれ、実際の成果や業績と異なる可能性があります。あらかじめご了承ください。

【対象期間】

2023 年度(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

※一部、該当期間前後の内容も含まれます

【対象範囲】

共和レザー株式会社について報告します。

※一部、連結子会社の内容も含まれます

【参照ガイドライン】

環境省「環境報告ガイドライン」

【発行時期】

2024 年 12 月

【お問い合わせ先】

共和レザー株式会社

<https://www.kyowale.co.jp/>

※お問い合わせフォームをご利用ください

共和レザー株式会社
取締役社長執行役員

花井幹雄



みんなの知恵で 未来に渡そう きれいな地球

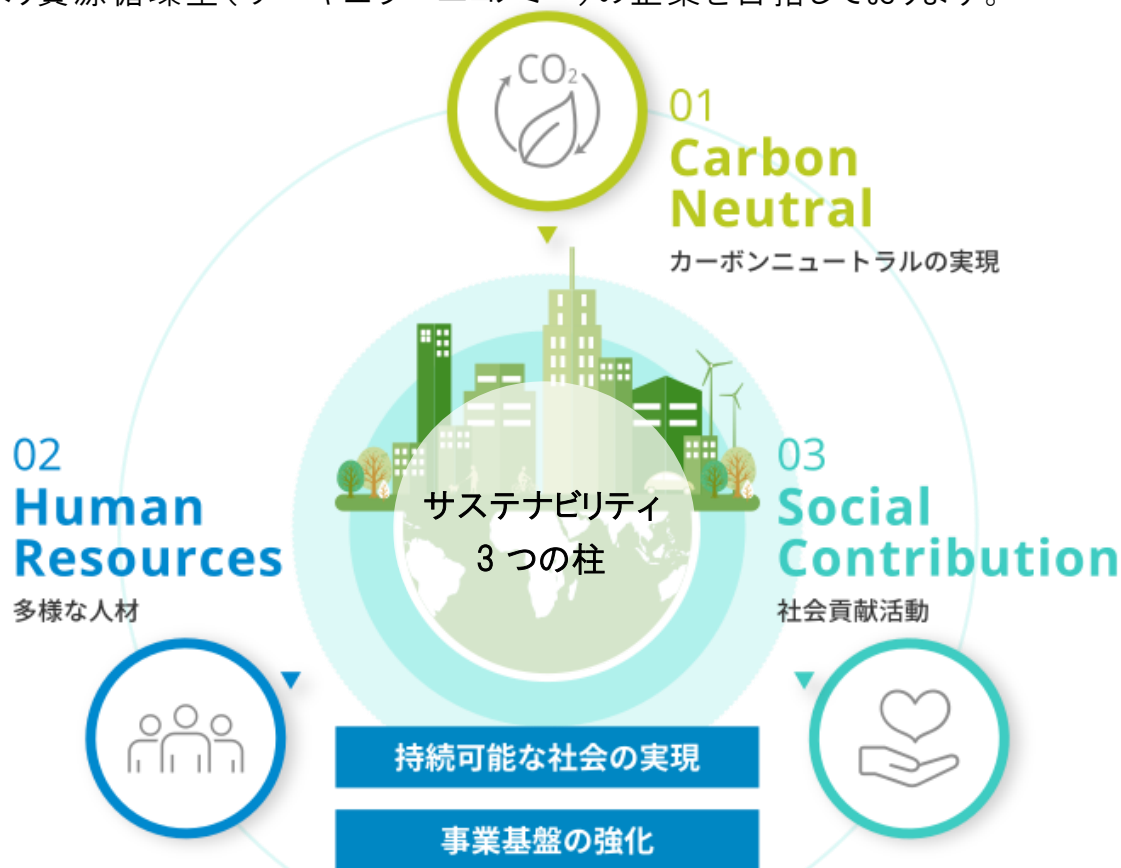
共和レザーは、1935年の創立以来、自動車、住宅設備、家具や鞆・靴などの表皮材メーカーとして、培ってきた「製品性能」や「デザイン性」により、自動車や住宅内装などの日々の暮らしの様々なシーンで「豊かさ」や「安心」を感じていただけるよう努めてまいりました。










近年では地球温暖化による気候変動が大きな課題となっており、「環境価値」のニーズが高まっています。環境スローガンとして「みんなの知恵で未来に渡そうきれいな地球」を掲げて活動しています。表皮材の提供によって車内や室内の「豊かさ」や「安心」を提供するだけでなく、「地球環境」全体に対しても価値のあるモノづくりをして、未来の持続可能な社会を実現することに向けて取り組んでいます。

環境問題の中でも気候変動問題については、2050年カーボンニュートラルを目標として活動しています。また、脱炭素だけに限らず、環境に優しい商品開発や環境負荷を与えない工法の確立により資源循環型（サーキュラーエコノミー）の企業を目指しています。環境関連の情報開示についても進めており、昨年度から「環境レポート」の作成と公開を初めました。今後、活動を推し進めて、レポートの内容も拡充してまいります。

サステナビリティ

当社は、業界に先駆けて環境 ISO14001 の認証取得など、「みんなの知恵で未来に渡そうきれいな地球」をスローガンに、自動車及び住宅・住設の内外装表皮材、ファッション・生活資材用表皮材メーカーとして、人と地球に調和した企業活動を行っております。「カーボンニュートラルの実現」「多様な人材」「社会貢献活動」の3つを柱に、将来の持続的成長に向けて取り組んでおります。環境に関しては、カーボンニュートラルの実現に限らず、環境に優しい商品開発や環境負荷を与えない工法の確立により資源循環型(サーキュラーエコノミー)の企業を目指しております。

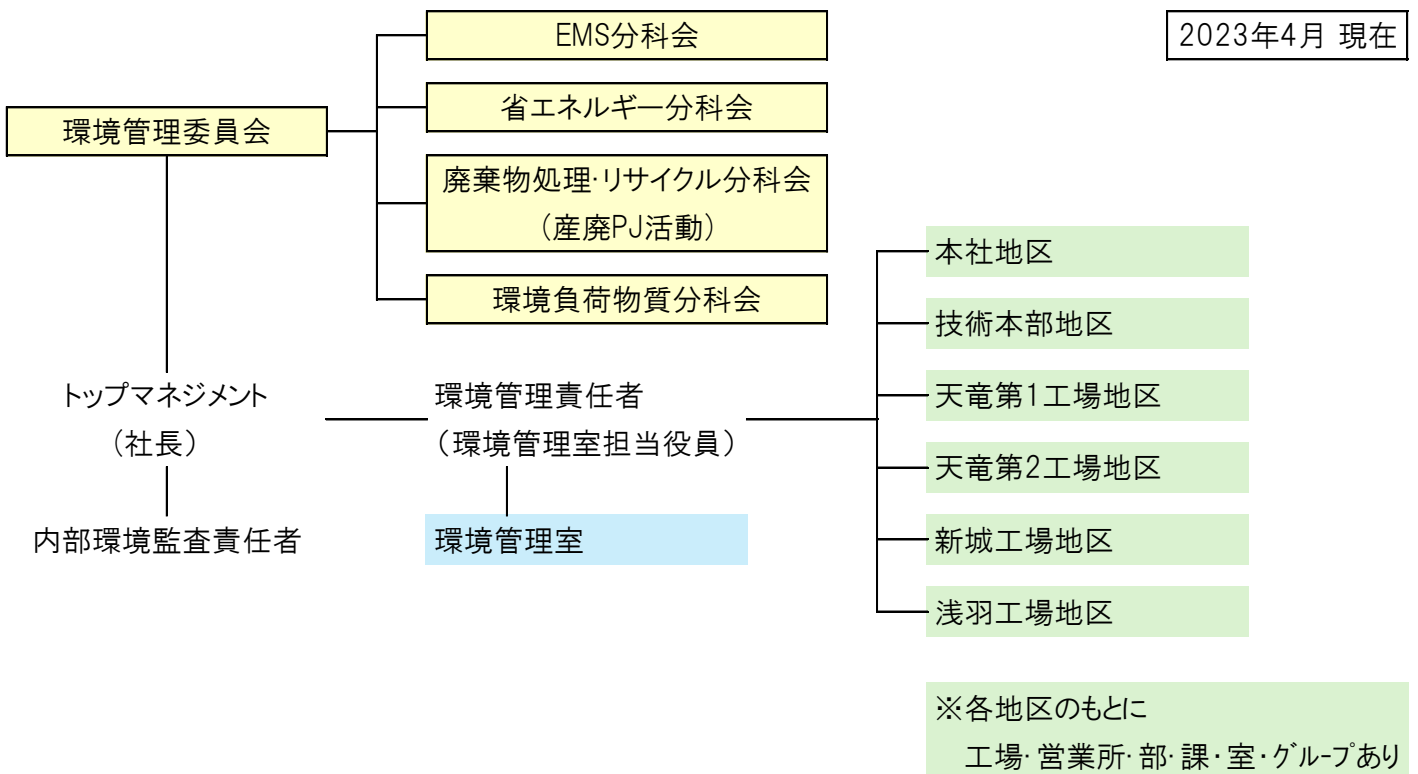
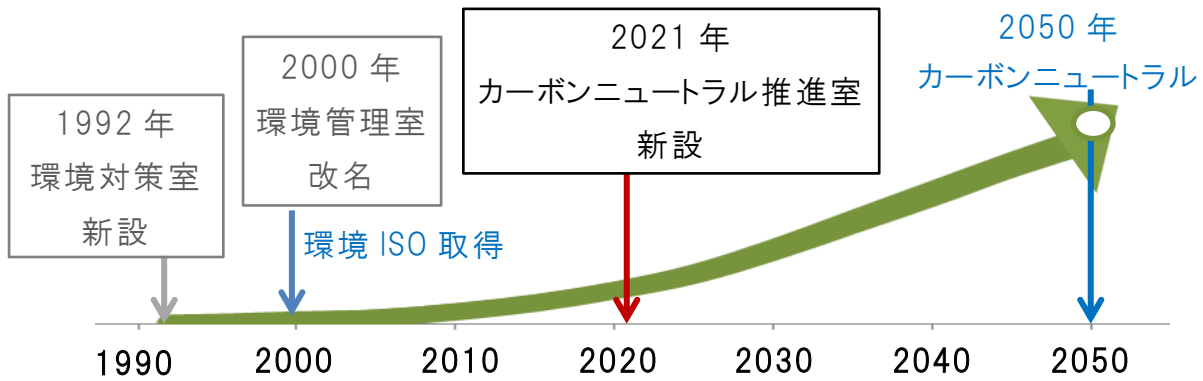


SDGs		取り組みの柱
	気候変動に具体的対策を	【01】カーボンニュートラルの実現 ・温室効果ガス(CO2)排出削減 ・CO2 排出削減に向けた製品開発
	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
	つくる責任つかう責任	
	働きがいも経済成長も	【02】多様な人材 ・男女ともに、仕事と育児の両立がしやすい環境づくりを目指し社内制度拡充 ・健康経営の取り組み、環境整備
	ジェンダー平等を実現しよう	
	すべての人に健康と福祉を	
	住み続けられるまちづくりを	【03】社会貢献活動 ・地域社会への貢献 ・生物多様性(生態系)の保護、水質保全
	海の豊かさを守ろう	
	陸の豊かさも守ろう	

環境マネジメント

推進、管理体制

共和レザーでは、環境管理室が環境全般の管理を行っておりますが、環境問題の中でも特に気候変動対策は重要な課題だと認識しており、2021年5月にはカーボンニュートラル推進室を新設し、活動を推進しております。



ISO14001 認証取得

2000年に持続的な環境対応のシステムが認められ、共和レザーはISO14001の認証を全社一括で受けることができ、その後も認証を継続しております。

3年毎の更新審査にて、直近では2024年に適用規格に適合されていることが認められております。



ISO14001
JAER 0179

環境方針

「みんなの知恵で未来に渡そうきれいな地球」をスローガンに、自動車及び住宅・住設の内外装表皮材、ファッション・生活資材用表皮材メーカーとして、人と地球に調和した企業活動を行う

環境方針

- (1) 環境に関する法律・規制及び当社が同意した協定事項を順守し、環境保全に貢献する
- (2) 時代の環境ニーズを先取りした商品を市場に提供する
- (3) 企業活動による環境負荷をミニマムにする
 - 1) 環境負荷物質の使用・排出の低減
 - 2) 資源の有効利用・廃棄物の低減
 - 3) CO2 排出量削減、省エネルギーの推進
- (4) 教育等を通して、全社員の環境意識を向上する
- (5) 地域との連携を密にし、地域の環境保全活動に協力する

2018年8月1日
共和レザー株式会社
取締役社長

以上の方針に従い、目的・目標を定め、
達成を図るとともに、定期的に見直し、継続して改善を進める

花井 幹雄

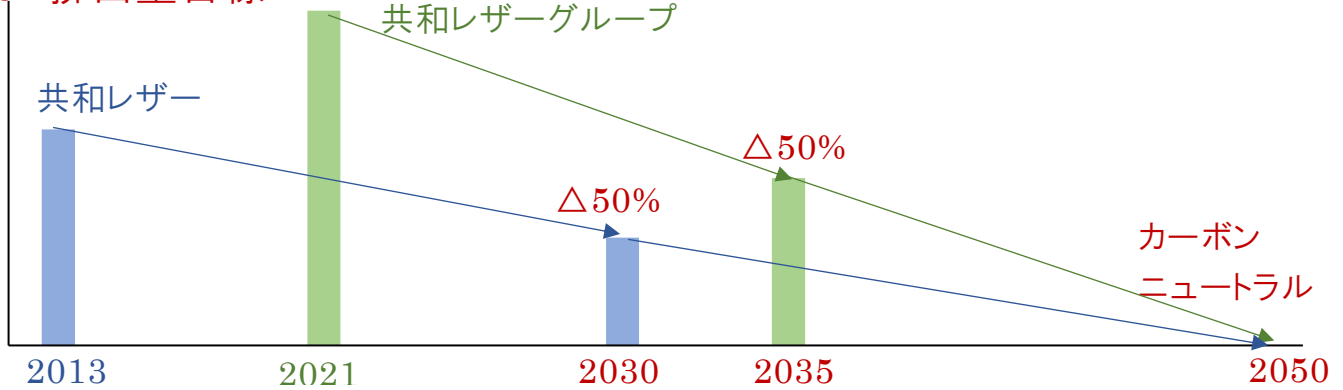
CO2 目標と実績

2020 年の政府の「2050 年カーボンニュートラル宣言」を受け、2021 年に共和レザーでも、2030 年△50%(2013 年比)、2050 年カーボンニュートラルの目標を設定しました。「①再生可能エネルギーなどの導入」、「②設備投資・技術革新などの応用」、「③日常改善の推進」を CO2 排出量削減活動の軸として推進し、自社で発生する CO2 の実質ゼロを目指します。

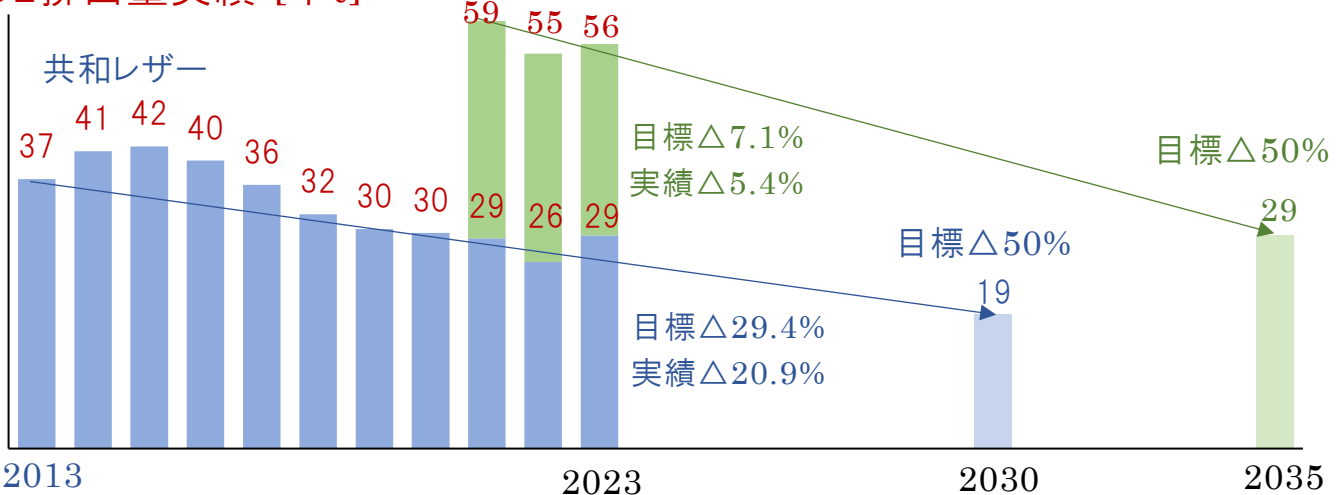
また、共和レザーグループでは、連結子会社を含めて、CO2 排出量のグループ目標を設定しました。2035 年に△50%(2021 年比)、2050 年カーボンニュートラルを目指します。グループで連携して、一丸となって CO2 排出量削減活動を進めます。

2023 年度も、計画通りに CO2 排出量削減活動を行い、製品 m 数当たりの CO2 排出量は減少しましたが、排出量絶対値では生産量増加と電力会社の換算係数の影響が強く表れました。

CO2排出量目標



CO2排出量実績 [千t]



CO2 排出量 [t-CO2] (Scope1,2)

(年度)

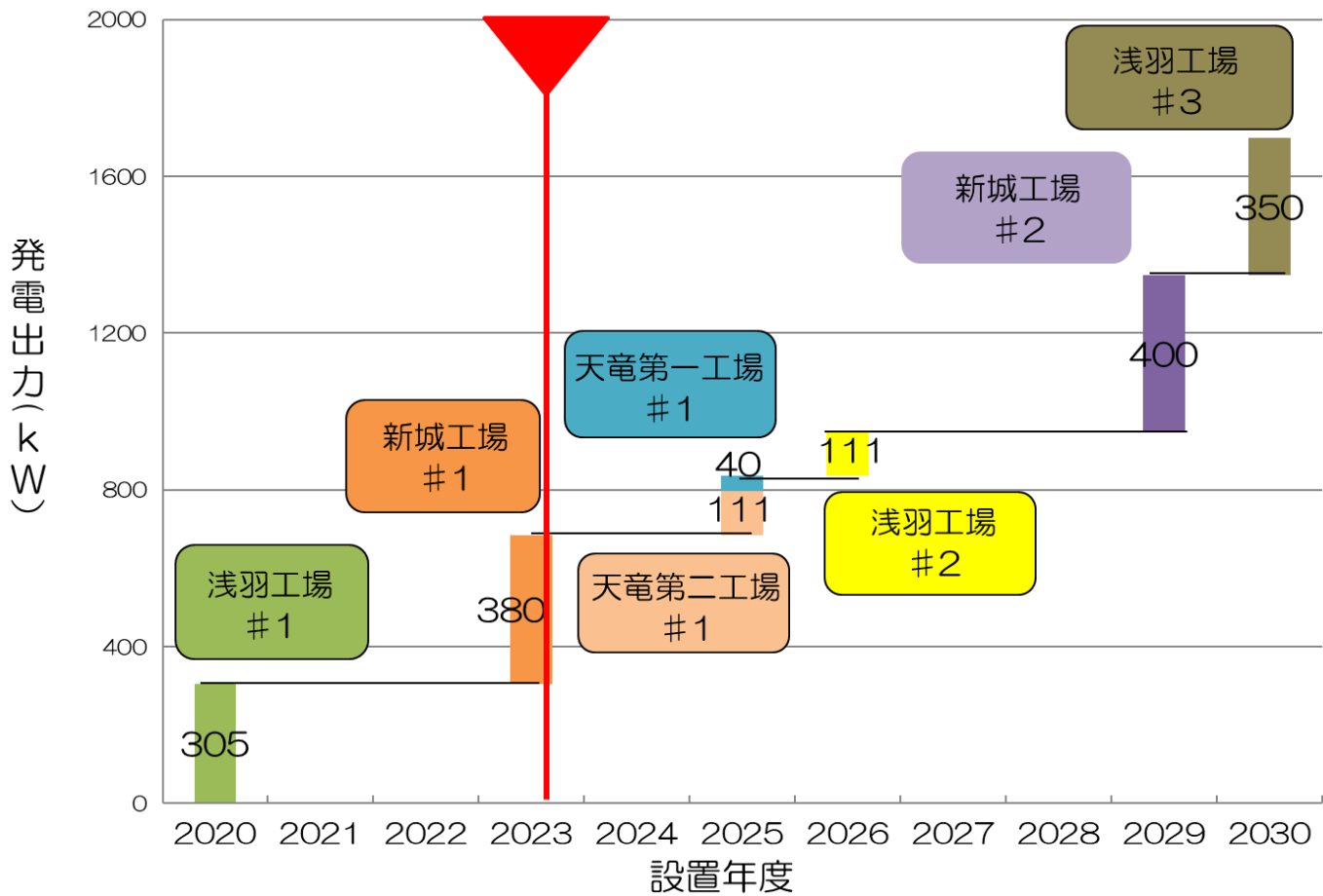
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
共和レザー	37,235	41,085	41,771	39,790	36,437	32,391	30,337	29,826	29,040	25,787	29,442
グループ	-	-	-	-	-	-	-	-	59,102	54,575	55,893

①再生可能エネルギー【太陽光発電】

2030年△50%(2013年比)CO₂削減目標を達成するために、全社的な太陽光発電の導入計画を策定しました。2023年度では新城工場へ導入をしており、年間約171トンのCO₂削減が可能となりました。

2024年度では天竜第一工場、第二工場への導入を計画しておりCO₂削減を図るとともに全工場ですべて再生可能エネルギー比率の増加を目指します。

全社 太陽光発電導入計画



事務所建屋



工場建屋



荷捌建屋

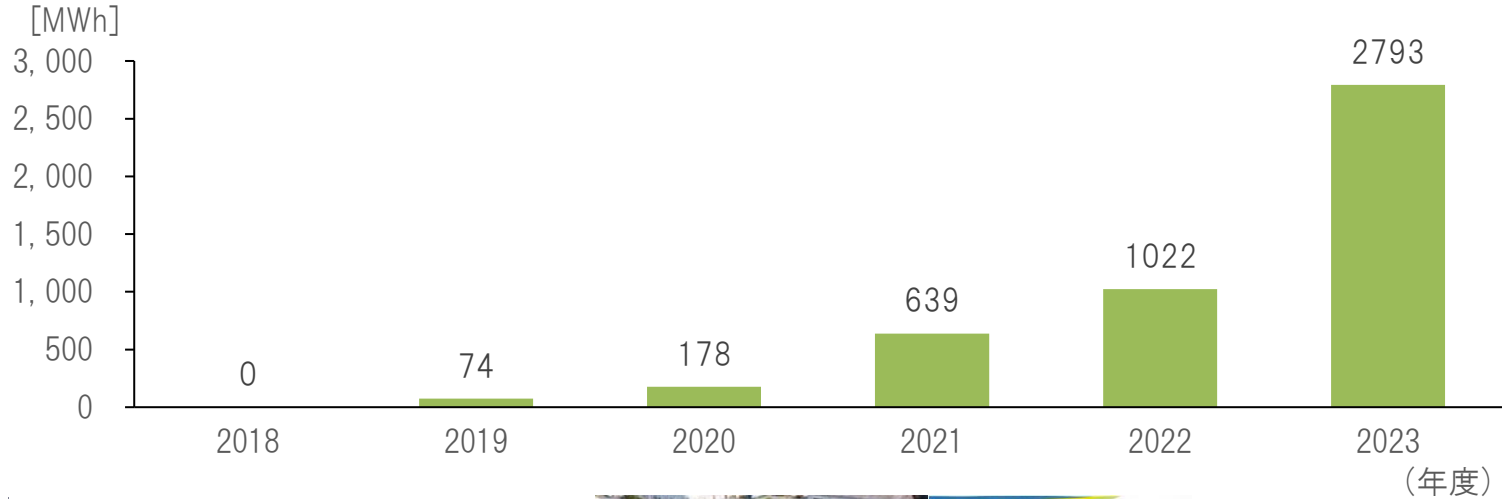
新城工場 #1 (3ヶ所) 計 380kW (2024/1~)

カーボンニュートラル

①再生可能エネルギー【CO2フリー電気】

新たに導入した新城工場の太陽光発電設備の他にも、他の工場にも太陽光発電設備が設置されております。また、CO2フリー電気の購入も行っております。

電力 再生可能エネルギー使用量 【共和グループ連結】



天1工場

90kW(2017～)



天2工場

40kW(2018～)



浅羽工場

305kW(2021/2～)

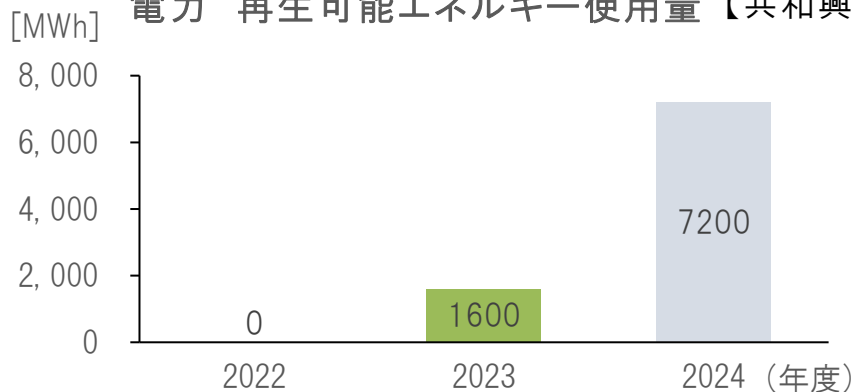


本社、技術センター
「CO2フリー電気」
(中部電力)
480MWh(2023)

■共和興(中国拠点)の取り組み

中国拠点のグループ企業の共和興でもグリーン電力の導入を開始しました。中国政府は2060年カーボンニュートラル、2030年までのピークアウトを宣言しています。2021年7月から全国炭素排出権取引制度が運用開始、初期段階では電力部門のみが対象、2023年から共和興カーボンニュートラル活動を推進、2035年△50%(2023年比)、中国の2060年より早い2050年でカーボンニュートラル実現を目指します。

電力 再生可能エネルギー使用量 【共和興】



共和興
2023年10月、
グリーン電力
を使用開始



②設備投資・技術革新【燃料転換】

■ ボイラーの燃料転換

2023年に浅羽工場熱媒ボイラーの新規導入し、A重油からLNG(液化天然ガス)へと燃料転換を進めました。

LNGは大気汚染の原因となるNO_x(窒素酸化物)の発生量が少ないうえ、SO_x(硫黄酸化物)とばいじんが発生しない環境にやさしいエネルギーです。ボイラーの運転効率が約30%向上し、さらに稼働状況に応じて細やかに蒸気発生量を調整できるようになりました。また、LNGは燃焼時のCO₂排出量も少なく、従来のA重油ボイラーと比べ年間約770トンのCO₂削減が可能となりました。

現在、新城工場でも新規蒸気・熱媒ボイラーの導入、燃料転換を検討中。
これにより年間約670トンのCO₂削減が期待されます。



浅羽工場 LNG ボイラー化
△770 トン CO₂/年
(2021 年度比)

②設備投資・技術革新【見える化】

■ エネルギー見える化

(1)計測器の設置

浅羽工場では、2021 年度に工程毎に計測可能な電力計、燃料流量計の設置が完了しています。計測値と日報の時刻を紐づけすることで、どの作業で、どれだけエネルギーを消費しているのか「見える化」ができました。

2023 年度は、浅羽工場で実施した「見える化」を各工場に横展を実施しました。各工場の代表品種に関わる工程へ優先的に電力計、蒸気流量計の設置とシステムの構築を進めています。

2023 年度の測定機器設置状況は、天一工場 50 %、天二工場 80%、新城工場 70%となっています。2024 年度に全工場の「エネルギー見える化」完了を目指し、機器の設置を推進しています。

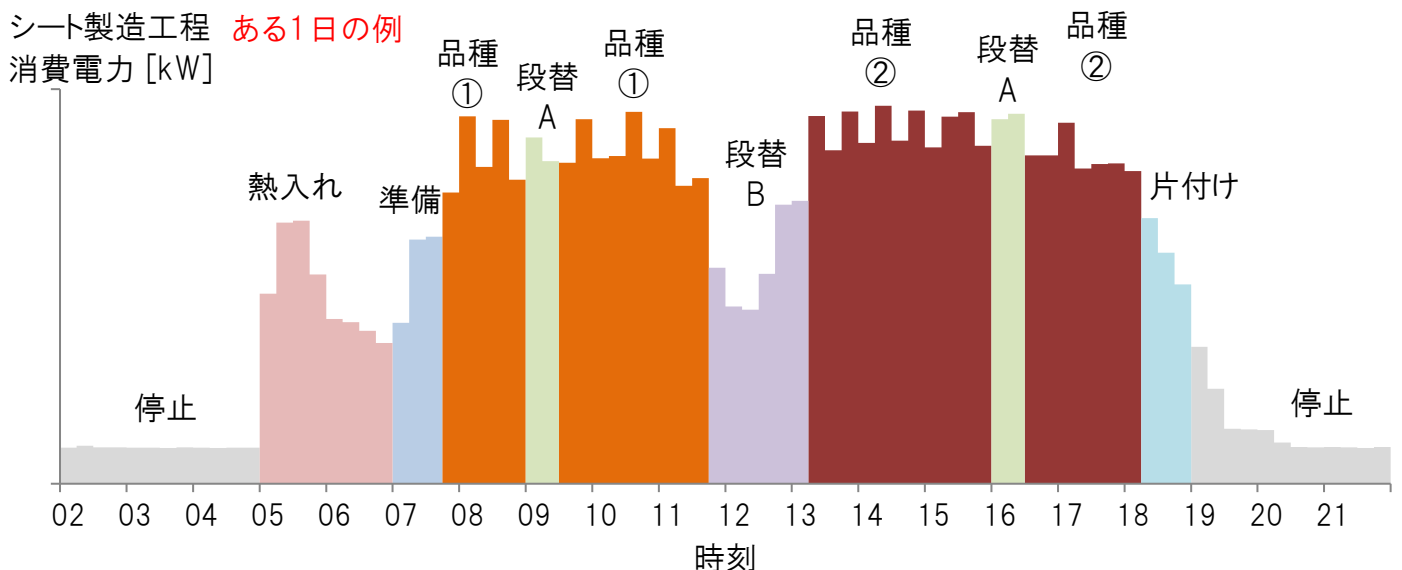
エネルギー見える化は、グループ企業にも同様の活動を展開しております。共和興の工程毎に計測可能な電力計の設置が完了しています。各工程のエネルギーを消費しているのか「見える化」ができました。

共和興の各工程に設置した電力計



(2)省エネへの活用

浅羽工場で、エネルギーの無駄を見つけるのに役立ち、シート化工程の熱入れ時間短縮による省エネに活用することができました。



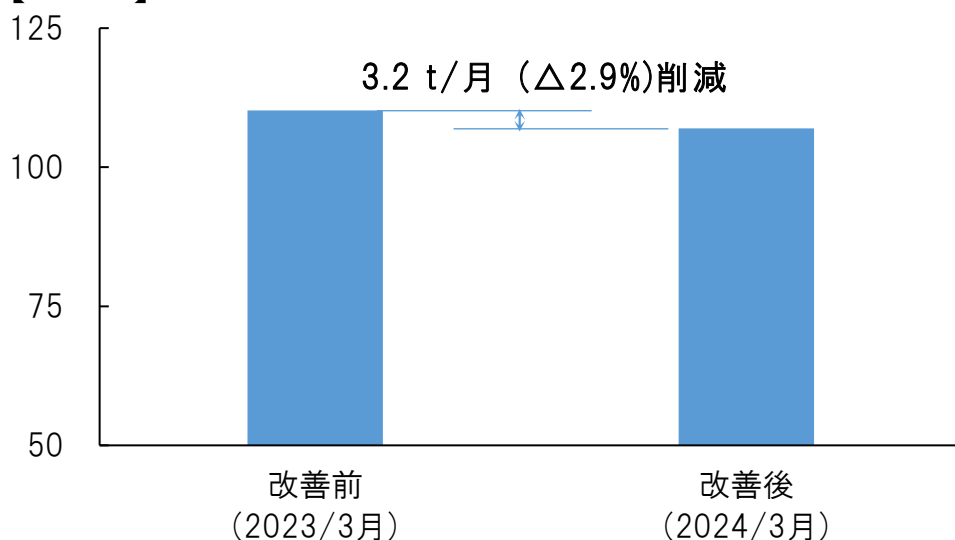
③ 日常改善・省エネ 【廃熱利用】

■ ホットウェルタンク フラッシュ蒸気排熱利用（天2工場2号棟：2024/3～）

- ・ 大気解放されているフラッシュ蒸気(戻りレンの一部が自己蒸発した蒸気)に着目しました
- ・ フラッシュ蒸気とタンク内水(ボイラー給水)を熱交換することでボイラー給水温度が上昇し、ボイラーの燃料使用量低減、CO2 排出量を削減する事ができました。



【t-CO2】 改善前後における CO2 排出量比較



- ・ 現在、天2工場本棟、新城工場で横展を検討中、2024年度改善実施予定
＜CO2削減効果見込み＞
天2工場本棟：51 t/年(Δ2.0%)
新城工場：78 t/年(Δ3.1%)

■ 天1工場 排熱利用による省エネ改善 消費電力Δ10%削減

- ・ コンプレッサーの排熱を検査室への暖房と保温庫への熱源供給に活用



③ 日常改善・省エネ【遮熱】

■ 天2工場 熟成室放熱ロス防止対策 消費電力 $\Delta 10\%$ 削減

扉・ドア部に遮熱材、のれん取付

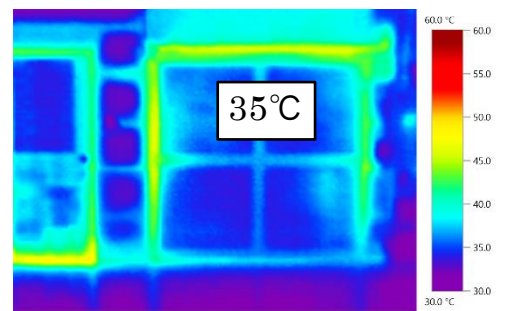
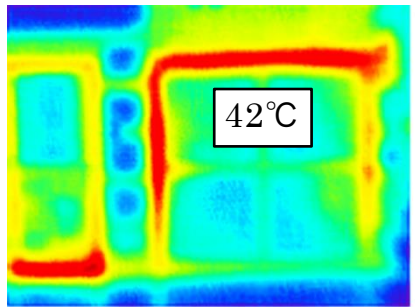
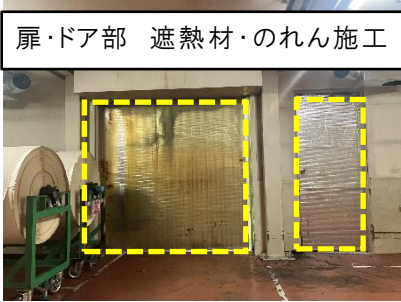
※製品は接着の架橋反応促進するため熟成室で24~72h養生(室温:60°C)されます

熟成室内部

保温施工前

保温施工後: $\Delta 7^\circ\text{C}$ 低減

扉・ドア部 遮熱材・のれん施工

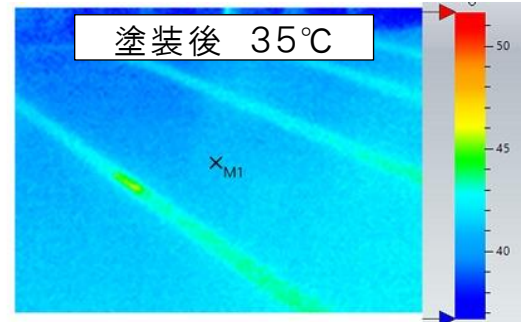
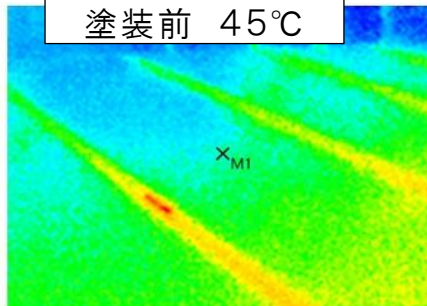
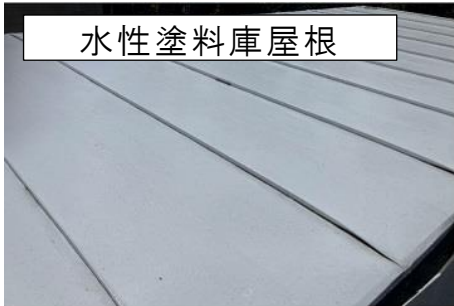


■ 新城工場 水性塗料庫断熱塗装による室内空調省エネ 消費電力 $\Delta 10\%$ 削減

水性塗料庫屋根

塗装前 45°C

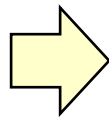
塗装後 35°C



■ 新城工場 屋外室外機(遮熱シート保護)



直射日光が当たり
熱交換器の温度が上昇



遮熱シートで
熱交換器の温度上昇を防ぐ

③ 日常改善・省エネ【設備更新】

■ 共和興 エアーコンプレッサーの更新

消費電力△20%

従来型



75kw×2台=150kw
エアーコンプレッサー満負荷運転

省エネ型



120kw×1台
省エネ型に更新

- ・さまざまな設備で、老朽化して効率の悪いエアーコンプレッサーから優先して更新
- ・省エネ型の更新により効率 UP、省エネを実現

■ 共和興 省エネポンプの改善により小型モーターに更新

消費電力△50%

従来型



90kw×2台、45kw×1台

小型



45kw×2台、22kw×1台

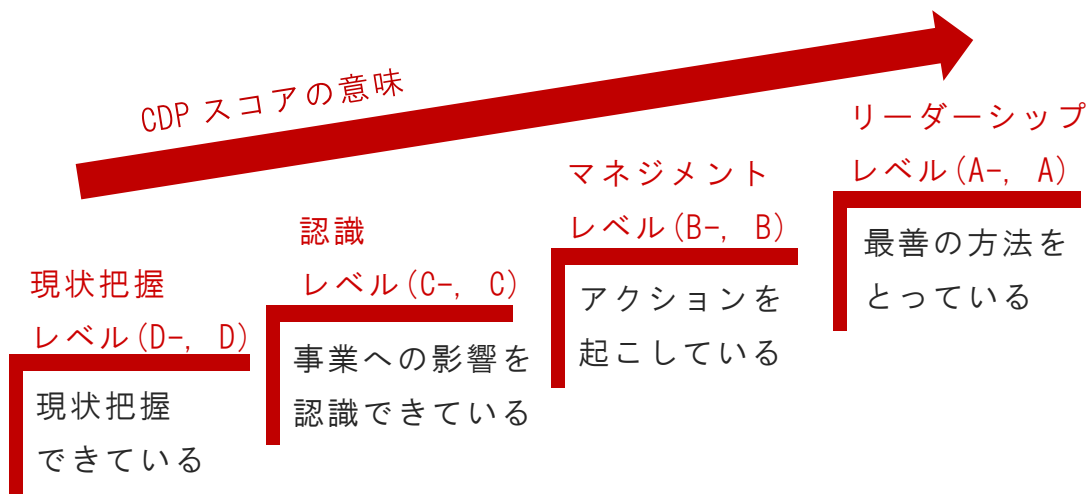
- ・効率の悪いポンプから優先して更新
- ・出力に余裕があったモーターは、小型のものに変えて効率 UP

CDP 評価

共和レザーは、トヨタ自動車のサプライチェーンプログラムを通じて CDP(環境に関する質問書で企業を評価する国際団体)へ情報開示を行い、ランク評価を受けております。



2023 年には、気候変動が B、サプライヤーエンゲージメントが A-、水セキュリティが B 評価で、いずれも、プラスチック製造業の平均を上回る評価を得られました。



非財務情報の開示

共和レザー2022年度の有価証券報告書から、「サステナビリティ情報開示」の項目で、TCFDに準ずる形での非財務情報の開示を始めました。以下、2023年の有価証券報告書と同様の内容を開示します。

(1)ガバナンス

当企業グループのサステナビリティを含む会社経営に係る重要事項についての方針・計画の審議は、必要に応じて設ける各機能会議を経て経営会議で行っております。当社は、カーボンニュートラル推進室を新設(2021年5月)し、2050年度カーボンニュートラルに向けた計画策定、推進及び提案を行っております。また、環境マネジメントシステム、法規制に基づく環境管理については、環境管理室が主管となって実績のフォロー・評価を行い、6ヶ月に1回開催する「環境管理委員会」(代表取締役社長が委員長、環境管理室担当役員が議長)で報告並びに審議を行っております。「環境管理委員会」の議事・審議内容は、経営会議にて代表取締役社長が報告します。

(2)戦略

気候変動シナリオ分析

区分		想定される影響	影響	対応
移行 リスク (2℃未満 シナリオ)	政策・規制	・カーボンクレジットや炭素税によるコスト増加	中	・CO2削減目標を設定し、グループ全体で活動を推進
	技術	・エネルギー転換や材料の低炭素化によるコスト増加	大	・省エネやソーラー自家消費等の低コストの低炭素化を優先
	市場	・低炭素製品の要求に対応できないと受注減少	大	・低炭素製品や循環型経済に対応できる製品を開発
	評判	・環境取り組みの遅れによる投資家の評判低下	中	・CDPや環境レポートなどで積極的に情報開示を行う
物理 リスク (4℃ シナリオ)	急性	・自然災害による操業停止や供給網の寸断	小	・サプライヤーや関連会社と連携して供給網を強靱化
	慢性	・気温の上昇による空調コスト増加	小	・省エネや生産性の改善などにより操業コストを抑制
機会 (2℃未満 シナリオ)	エネルギー・資源	・省エネやエネルギー転換によるコスト削減	中	・省エネやソーラー自家消費等の低コストの低炭素化を優先
	製品・市場	・環境対応製品による付加価値上昇と売上増加	中	・低炭素製品や循環型経済に対応できる製品を開発

非財務情報の開示

当社は、気候変動によるリスク・機会と影響度の検討のため、シナリオ分析の実施を進めております。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)や、国際エネルギー機関(IEA)の情報を参照して、2℃未満シナリオと4℃シナリオを設定しています。今後もシナリオ分析を定期的の実施して、リスク・機会への対応を進めてまいります。

(3)リスク管理

当社は環境方針に基づき環境関連のリスクを特定し、その低減に向けた目標を定めて各部門が改善を推進します。その実績についてはマネジメントシステム(ISO14001)を活用して各部門で評価し、各環境関連分科会で報告・議論した後に、全社の環境管理委員会で報告・審議します。さらに発見された重大なリスクについては、6ヶ月に1回開催しグループ各社の担当役員が出席する危機管理委員会において報告、諸施策の審議決定を行っております

(4)指標と目標

当社では、CO₂排出量(Scope1,2)の2025年度△30%(2013年度比)、2030年度△50%(2013年度比)、2050年度カーボンニュートラルを目標として設定しております。また、当企業グループ連結では、2035年度△50%(2021年比)、2050年度カーボンニュートラルを目標として設定しております。「①再生可能エネルギーなどの導入」、[②設備投資・技術革新などの応用]、「③日常改善の推進」を軸として、CO₂排出量削減活動を進めております。2023年度も、計画通りにCO₂排出量削減活動を行っております。活動内容の詳細な内容については、当社ホームページ上で「環境レポート」として公開する予定です。

CO₂排出量(Scope1,2)

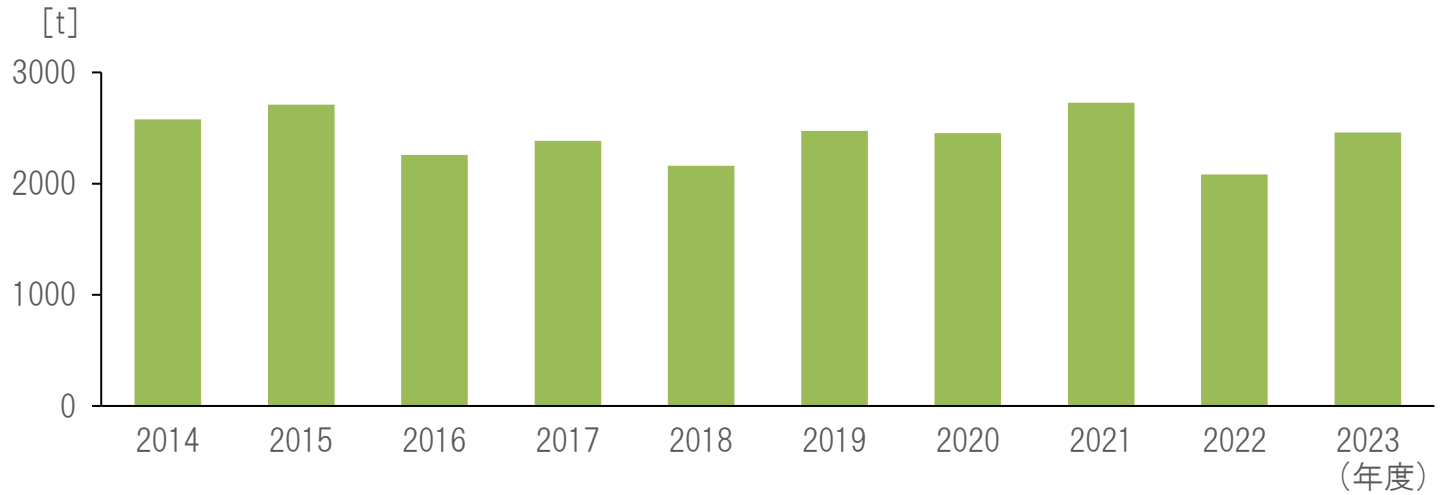
	実績 (t-CO ₂)		目標	
	基準年	2023年度		
共和レザー単体	37235 (2013年度)	29442	2030年度△50% (2013年度比)	2050年度 カーボン ニュートラル
グループ連結	59102 (2021年度)	55893	2035年度△50% (2021年度比)	

算定条件: Scope1の換算係数は環境省の数値、Scope2の換算係数はマーケット基準

廃棄物量

共和レザーでは、限りある資源を有効活用し、環境負荷を低減するため、産業廃棄物の削減活動を行っております。

廃棄物量



■産廃PJ活動

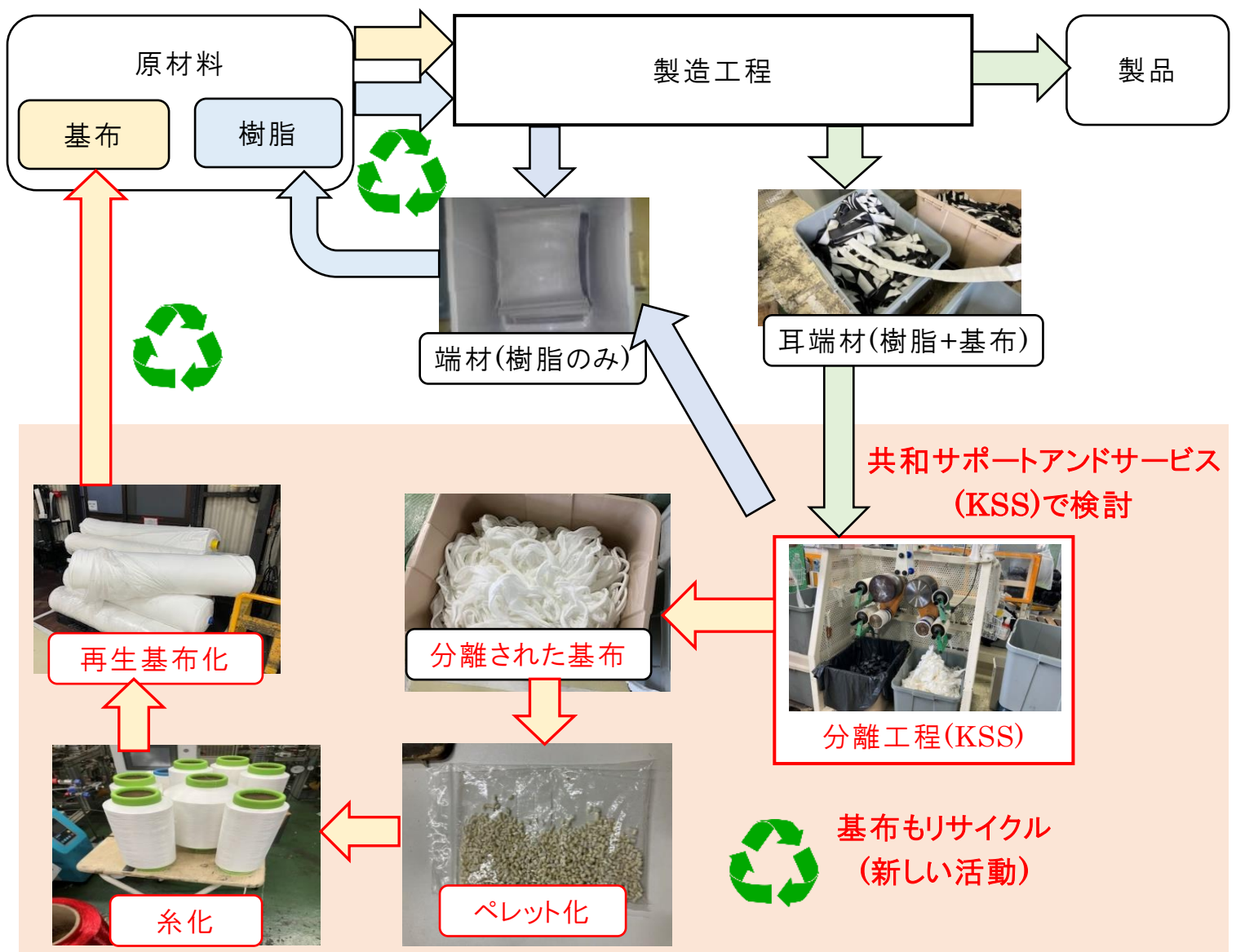
発生の抑制：工場毎の廃棄物発生内容の把握と削減改善の実施

再利用の推進：社内・社外での廃棄物資源化の実施

樹脂・基布のリサイクル

共和レザーでは、製造工程内で発生した樹脂の端材を同じ工程でリユースするだけでなく、樹脂と基布が貼り合わさった端材を分離し、再び原材料として使用可能な状態へのリサイクルも行っております。

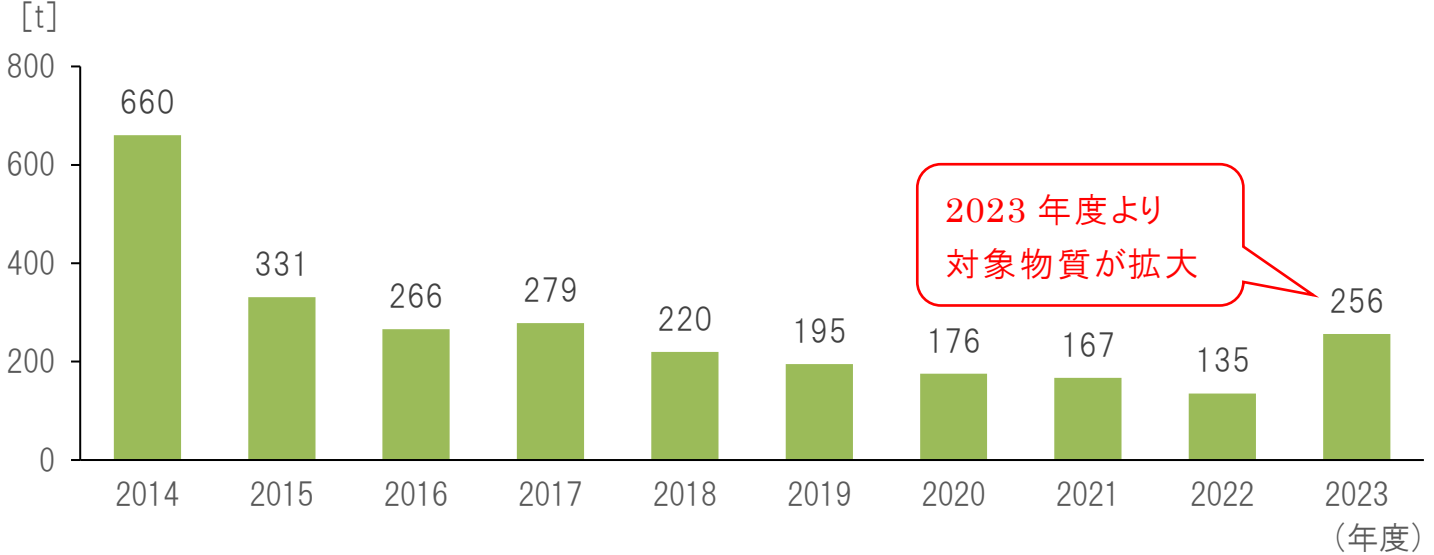
共和サポートアンドサービス(KSS)では、共和レザーから発生した廃材塩ビをPVCと基布に分離し、PVCは共和レザー内でリユースしています。基布はもう一度糸に再生し、再生基布に加工する活動を共和レザーと共同で行っております。



PRTR 対象物質

共和レザーでは、シックハウス症候群などの原因となるトルエンなどの有機溶剤を別の物質へ置き換えて、使用量低減を進めています。また、排ガス中の有機溶剤を燃料として再利用する設備を導入して、環境負荷物質の有機溶剤が大気中へ排出される量を抑えています。

PRTR対象物質の排出量・移動量



PRTR 対象物質の排出量・移動量 [t]

-: 対象未満 (年度)

届出対象物質	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
アンチモン及びその化合物	7.5	7.2	6.8	7.0	7.8	8.3	8.2	9.0	8.2	9.1
トルエン	155.4	93.7	76.6	67.7	46.8	35.8	27.5	22.2	19.3	15.2
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	34.8	32.6	16.8	9.8	1.5	0.1	-	-	-	-
メチルナフタレン	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	-
エチルベンゼン	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キシレン	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
N,N-ジメチルホルムアミド	453.7	192.0	162.5	189.8	160.8	147.6	136.1	131.1	103.0	136.9
トリエチルアミン	2.5	2.9	2.9	2.7	2.9	3.3	3.7	4.7	4.6	5.5
ノルマル-ヘキサン	2.9	2.3	-	1.3	-	-	-	-	-	-
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	0.4
N-メチル-2-ピロリドン										4.3
エチレンジグリコールモノブチルエーテル										1.6
シクロヘキサン										15.4
メチルイソブチルケトン										67.7
ほう素化合物										0.0
合計	660.0	330.9	265.9	278.5	219.9	195.2	175.6	167.2	135.4	256.2
届出対象物質数	9	7	6	7	6	6	5	5	6	10

環境対応製品

リサイクル PET 使用製品

共和レザーでは、製造時の燃料や電力によるCO2だけでなく、原材料由来のCO2を削減するために、PET ボトル由来のリサイクル基布を使用した合成皮革も開発しています。



バイオ材料配合製品

共和ライフテクノではバイオマス材料を配合したバイオヴィーガン合成皮革「LeNa」を開発しています。間伐された竹を使用した BambLena、廃棄される貝殻を使用した SheLena などのバリエーションがあります。



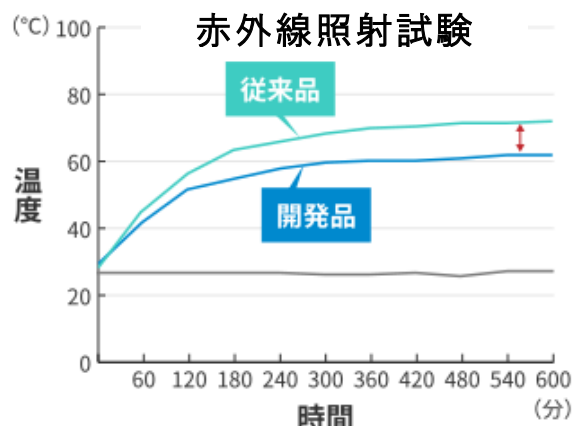
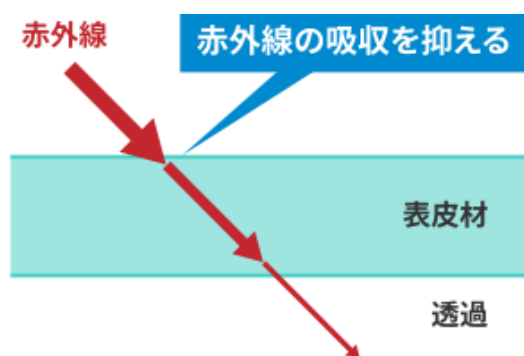
<https://www.kyowalt.co.jp/lena/>

これまでに開発・上市した「LeNa」については、バイオ度 20～30%でしたが、今後バイオ度 50%の製品設計確立を目指し、開発を進めていく予定です。

また、これまでの環境対応商品については、鞆、袋物を主要用途とし展開してきましたが、今後は、スポーツ分野の商品開発も進めていく予定としております。

昇温抑制機能

共和レザーでは、環境材料への置き換えだけでなく、新しい機能を持った製品を開発しています。昇温抑制機能を持った自動車表皮材は、車内のエアコンの省エネになるため、自動車使用時も含めた製品ライフサイクル全体でのCO2排出削減に貢献します。



エシカルな合成皮革 Sobagni

共和レザーでは、「Sobagni(ソバニ)」ブランドで、雑貨類の販売を行っております。



<https://sobagni.jp/>

ETHICAL
(倫理的)

イタリア語の sogni(たくさんの夢)と、
日本語の「そばに」をかけあわせた造語

地球環境や地域社会と共生し、人にも動物にも、地球にも優しい合成皮革であり続けるために、Sobagni の取り組みをご紹介します。



アニマルフリー／環境配慮
ECOLOGY

動物の革を身に着けることは動物虐待なのではないか、という思想から世界的に動物素材を使わない「アニマルフリー」の考え方が支持されています。合成皮革は「アニマルフリー」な素材です。そのうえ、Sobagni の素材は、環境負荷物質や環境ホルモンに該当する化学物質は使用せず、人にも動物にも環境にも優しい素材です。



サステナブル
SUSTAINABLE

圧倒的な軽さ(※1)、自動車基準の高い耐久性、10年以上ずっと変わらない質感と品質(※2)。素材の特性を活かした使いやすく、飽きのこないデザイン。本当のサステナブルは耐久性。使い捨てではなく、お気に入りのアイテムを長くご愛用いただくことこそ、サステナブルであると考えています。



社会貢献
PARTNERSHIP

「私たちの素材や活動によって、社会に役立つことをしたい」という想いから、Sobagni では社会貢献活動を積極的に行っています。

- ・地域企業やデザイナーとのタイアップ。
- ・デザイン系大学や地域学校の支援(産学協同プロジェクト)
- ・授産施設とのコラボ

※1: 同じ厚みの本革の 2/3

※2: 素材は 10 年の耐久性がございしますが、縫製や金具を含めた商品そのものの耐久性をお約束するものではありません。

静岡茶から作った Chakara



静岡茶から作った
ヴィーガン合成皮革


Chakara®

コンセプト

- ・自社技術を活用し、地域とともに循環型経済(サーキュラーエコノミー)を構築する
- ・以下を満たす原材料を、合成皮革へ添加

- ・「原材料は可食ではないもの」
- ・「粉末化するときのエネルギーが少ないもの」
- ・「国内で産地が明確なもの」

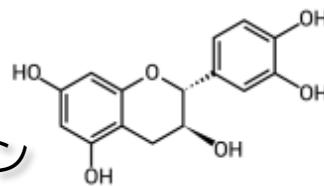


静岡県内の製茶メーカーで
抹茶の製造時に発生する茶葉の
非可食部分を使用

Chakara を使用した Sobagni

- ・循環型経済(サーキュラーエコノミー)へ貢献
- ・しなやかで高級感のある表情と、ふわりと香るお茶の香り
- ・茶葉に含まれるカテキンによる抗菌・防臭機能

カテキン



Chakara 特設サイト

<https://sobagni.jp/chakara/>



私たちは毎年、地域の環境保全活動に参加し、地球の未来をより良くするための取り組みを続けています。具体的には、清掃活動などを通じて、地域の自然環境の保護に貢献しています。これからも地域との共生を図りながら、持続可能な社会の実現に向けて努力してまいります。

私たちの企業は、環境保全を重要な使命と捉え、地域社会と協力して地球の未来を守るための活動を推進していきます。

家庭の不用品を海外へ寄付

2023/9/26、「もったいないボランティアプロジェクト」を通して、回収した家庭の不用品(160.5kg)を、海外へ寄付しました。



地域の清掃活動

■ 佐鳴湖クリーン作戦

浜松市にある佐鳴湖の清掃活動

2023/8/6(日) 佐鳴湖クリーン作戦・・・当社から 58 名参加



■ しんしろクリーンフェスタ 2023

新城市の共和レザー新城工場周辺市道の清掃活動

2023/11/4(土) しんしろクリーンフェスタ 2023・・・当社から 45 名参加

